

# 自立にやれおし難民

## 週刊 首都圏

第三国定住が始まって、日本に暮らす難民がこれから増えてゆく。これまで社会とのかかわりが薄かったが、在留する人が増えるに従い、地域にとけ込み自立をめざす動きが首都圏で広がっている。それもネイルアートの技を身につけたり、民族の伝統技術を生かした携帯ストラップを作ったりと、おしやれに、しなやかに。

(宮嶋加菜子)

### ネイルケア 楽しく仕事

東京都港区虎ノ門のマンションの一室。午後5時半過ぎ、女性たちが机の上にピンクやグリーン、赤、ラメと、色とりどりのマニキュアの瓶を並べていく。胸のネームプレートには英語、日本語など話せる言語も記されている。

午後6時半、チャイムが鳴った。予約の女性客が2人。「いらっしゃいませ」

ここは、ミャンマー(ビルマ)などから日本に逃れてきた難民がネイリストのネイルサロン「アルーシャ」だ。

机の上の木箱の中には、手作りのネイルアート見本プレートがずらりと並ぶ。小花を散らしたり、ラメがきらきら輝いたり。客の好みを聞きながら、デザインを決めてスタート。

つめの甘皮を磨き、丁寧にマニキュアを塗っていく。「タイ料理の美味しいところ、教えてほしいなあ」と客が言えは、「からのが大丈夫ならおすめのお店ありますよ」。会話しながら手をマッサージしている。2時間後、仕上がりを「かわい」と喜ぶ客の姿に、3人ともほっとした表情になった。サービスを始めたのは、アルーシャ社長の岩瀬香奈子さん(35)。2009年に企業コンサ

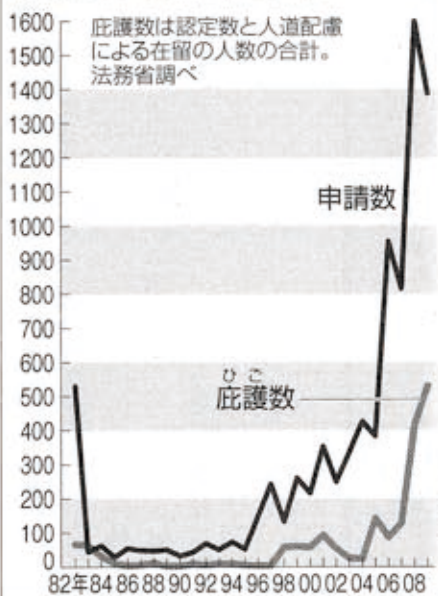
ルタント会社を起業したころ「日本では難民が仕事や住居を見つけないのが難しい」と支援団体から現状を聞いた。学生時代にサービスを始めたのは、アルーシャ社長の岩瀬香奈子さん(35)。2009年に企業コンサ

クルド民族の伝統的レース編み「オヤ」の技術で作った商品の数々。ピアスにネックレス、携帯電話ストラップ



ネイル見本もすべて手作り。季節ごとに新作を考えている

難民認定の申請と在留を認められた人



埼玉県蕨市周辺にはトルコ出身のクルド人が集住している。トルコ政府から迫害を受けたとして日本政府に難民認定を申請しているが、認められていない。在留資格がないため仕事もできず、家にこもりがちだ。そんなクルド人の女性たちが社会とつながる糸口になっているのが、「オヤ」と呼ばれる伝統のレース編み技術だ。

NPO法人難民支援協会が、クルド人コミュニティの社会参加と自立を目指し、今年から商品開発の取り組みを始めた。まずはクルド人同士の連帯感を深めようと、5月上旬から月

に1回、蕨市民会館でミーティングを開き、商品開発の意義や目的を話し合った。

6月からは難民支援イベントで展示販売を開始。携帯のストラップやピアス、ネックレス、コースター。編み棒で細やかに編まれた小花模様などは、「かわい」と好評だった。

オヤの商品化で自信がつかないのか、女性たちから「日本人と話せるように、日本語を学びたい」という声も出るようになった。「伝統技術が日本社会とのコミュニケーションを生み出すきっかけになっている」。協会は手応えを感じている。

アだった。

「ネイルケアはリビート率が高く、技術を身につければどこでも仕事ができる。難民の人たちの経済的自立につながるんじゃないか」。昨年12月から支援団体と情報交換し、仕事を失った難民女性たちを紹介してもらった。ネイリストに関心はあるかとたずねると、多くの人が「やってみよう」と答えた。今年2月から岩瀬さんが講師役となって1日5時間の研修を3週間開き、17人の難民女性たちに指導してきた。

5月、ネイルケア技術をマスターした4人がネイリストとしてこのサロンで働きはじめた。ネイリストの一人、ミャンマー難民の女性(41)は、軍事政権に父親を殺害され、母親を残して1991年に姉とともに日本へ。難民認定は受けたものの、飲食店や工場など職場を転々とした。暮らしのために仕事を選ぶ余裕はなかった。

最初は難民支援者の来客が多かったが、技術力と他店よりも低めの価格が好評で、口コミで人気広がっている。仕事帰りに立ち寄る会社員が多く、平日の夜は予約で埋まることもあるという。

岩瀬さんは「スキミングとコミュニケーションを通じて、日本人と難民の間の距離も縮まっているみたいですよ」と、手応えを感じている。

2009年夏、不況の影響から勤め先を解雇され、その後仕事が見つからなかったとき、支援団体からアルーシャの活動を紹介されて、講習を受けた。「きれいなものやおしゃれが好きだから、この仕事ができると嬉しい。今までの仕事は誰とも話さないで一日が終わったけど、ネイリストになってからは日本人の友達もたくさんできた」と、うれしそうに笑う。

「もっと技術を磨いて、もっとお客様に喜んでほしい」と

毎週金曜に掲載します。ご感想や情報をお寄せ下さい。ファクスは03・5565・0837、メールはshutoken123@asahi.comへ。